

# 【ねがいましては】

平成27年5月25日

KYOWA SCHOOL

第295号

「妨げるもの」

3月初旬、『東大教養学部は、後期課程（3～4年）の今学期末の課題として提出されたある学生のレポートについて「約75%がインターネットに公開されている文章の引き写しだった」とホームページ（HP）で10日公表した。』（記事より）

私はこの記事を見て絶句しました。さらに詳しく調べてみると、現在学内の掲示板には3枚の処分に関する文書が貼られているそうです。2枚はスマホなどを使用したカンニング、1枚は他人のレポートの不正取得。

不正を働いた学生たちは、いったい何を目的にして東大に進学したのでしょうか。あまりにも稚拙な行為に言葉が出てきません。

勉強って何なのだろう。学ぶって何なのだろう。学びの頂点に位置すると思える東大生がこのような不始末を……。

東大にあこがれて毎日のように必死に向かっている受験生たちの落胆ぶりが目に浮かびます。

合格すればいい。ただそれだけの目的で向かってきたのなら、とても残念なことです。東大という名誉を獲得すれば、それで事足りたということなののでしょうか。だとしたら、人生観についても稚拙そのものです。

いつの間にか学びの原点をすっかり忘れてしまったのかもしれない。

学びって何なのだろう。真の学びを就学時点より伝えていかなければ、このようなことは繰り返されてしまうかもしれません。

成績が上がった、下がった。これはテストのために覚えた、覚えなかった。という子どもたちのがんばりの度合いのことなののでしょうか。考えることで点数に反映されるテストも確かにあるのですが、中高生たちが取り組んでいるテスト勉強を見てみると、どれだけ覚えたかが問われる割合がかなり大きいと思います。

機械的に覚えていればそれで良いわけで、内容について詳しく把握していなくても、文脈等で「あつ、あれだ。」といった感じで、書いてしまうものもあると思います。

先月訪問した小学校でのことなのですが、児童たちが枯れ枝を拾い集めていました。聞いてみたところ、この枝で七輪を使ってお餅を焼くのだそうです。これぞ真の学び、拍手！どのくらいの枝が必要なのか、火力はどのくらいなのか、どのくらいのお餅を焼くことができるのか、焼き具合はどんな感じか……。理科の実験プラス家庭科、算数も加味されて、歴史もちょっぴり……。もちろんその中に飛び交う言葉は立派な国語。児童たちの輝く瞳が想像できます。

すべての児童たちに共通するもの、前向きな気持ち……。担任の先生に拍手です。きっと良い思い出ができることでしょう。

で、「その小さな実験について作文を書きましょう。」なんて一言いけば、とたんに「えー、成績になるのー、だったらいやだな。」と、とたんに気持ちはクールダウンです。楽しかったお餅焼きが……。実際に作文やレポート作成をしたのかは、定かではありませんが、キャンプにでも行ったような子どもたちの表情を連想させていただきました。

中学生たちの日常で、提出物があります。学校指定の問題集を、指定されたページまで指定日までにやってくる。さもないと、成績に大きく響く……。ある意味、脅迫です。全くわかっていなくても「わかりませんでした」と、空欄にできません。「やらなかったじゃないか」と、受け取られてしまうからです。宿題ですね。ですから、定期テストが近づいてくると、彼らは一目散に提出物の解答記入に勤しんでいます。私の中からは「あーあ。」ため息ばかり……。「これが勉強なのか……。これが学びなのか……。」

課題提出を楽しそうにやっている子どもがいたら見てみたい……。

学びってもっと自由で、もっと前向きで、もっときらきらして、わくわくさせてくれて、先へ先へ行きたくて、気がついたら人生の目標が見えてきたりして……。そうしたら猛烈に向かいたくなくて、気がついたら目的にふさわしい大学へ入っていた。そして社会へ羽ばたいていく……。

そんな当たり前があったのなら、今回の東大での不正はなかったのかもしれない。不正をした学生のこれまでの学びに関する変遷を見てみたいものです。少なくとも自らの目的にまっすぐに向かっているという構図は想像できません。幼い頃から多額の教育費をかけ、ご両親の熱心なアドバイスを受け（かなり皮肉っています）、のぼらされてきたのかもしれません。

子どもたちは学ぶことについて強烈な好奇心を持っています。最近では、5年生が数学を始めました。現在、2年生の数学計算に入っています。その向かっている姿は真剣そのもの……。向かう姿勢は100点です。

学びは自由だと思っています。教科書があって、学年があって、範囲があって、どんどん出てはいけないような箱を作って閉じ込めているような気がいたします。学年次にここまでは習得させなければならないといった、指導者側の義務感が、さらに子どもたちの気力を失わせているのかもしれない。さらにご家族がそれを後押ししている……。「あんた、こんどまた成績下がったらどうなるか覚えてらっしゃい……。」だったり。

学びは自由、精一杯に向かっていたらそれが100点。どんどん質問してください。それが100点。ありがとう。